

様式1

大学等名	志學館大学
プログラム名	Society5.0基礎プログラム(MDASHリテラシー)

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

共通教育科目の中から、「情報技術演習」(2単位)、「Society5.0と情報」(2単位)、「確率と統計の基礎」(2単位)、「情報技術演習Ⅱ」(2単位)、「情報技術論」(2単位)の5科目10単位を必ず修了すること。

必要最低科目数・単位数

5

科目

10

単位

履修必須の有無

令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
Society5.0と情報	2	○	○	○					
情報技術論	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
Society5.0と情報	2	○	○	○					
情報技術論	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報技術演習	2	○	○						
Society5.0と情報	2	○	○	○					
情報技術論	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報技術演習	2	○		○					
Society5.0と情報	2	○	○	○					
情報技術演習Ⅱ	2	○	○	○					
情報技術論	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報技術演習	2	○	○	○	○						
確率と統計の基礎	2	○	○	○	○						
情報技術演習Ⅱ	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報技術演習	4-2アルゴリズム基礎		
情報技術演習	4-5テキスト解析		
確率と統計の基礎	4-1統計および数理基礎		
情報技術演習Ⅱ	4-7データハンドリング		
情報技術論	4-3データ構造とプログラミング基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI「Society5.0と情報」(4回目) ・Society5.0「Society5.0と情報」(4回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「Society5.0と情報」(5回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「Society5.0と情報」(6回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「Society5.0と情報」(7回目) ・AI、ロボット「情報技術論」(14回目)
	1-6	・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「Society5.0と情報」(6回目)、「情報技術論」(8回目) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「Society5.0と情報」(7回目)、「情報技術論」(15回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「Society5.0と情報」(5回目)、「情報技術論」(10回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「Society5.0と情報」(5回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「Society5.0と情報」(2回目)、「情報技術論」(4回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「Society5.0と情報」(3回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「Society5.0と情報」(5回目)、「情報技術論」(8・11回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「Society5.0と情報」(5回目)、「情報技術論」(8・11回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「Society5.0と情報」(7回目)、「情報技術論」(8・11回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など「情報技術論」(9・10回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「情報技術演習」(11・12回目)、「情報技術論」(9・10回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「Society5.0と情報」(1・2回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「Society5.0と情報」(4回目)
	1-5	・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「情報技術論」(14回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報技術論」(14回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「情報技術論」(12・13回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「Society5.0と情報」(6回目)、「情報技術演習Ⅱ」(1回目)、「情報技術論」(12・13回目) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「Society5.0と情報」(6回目)、「情報技術演習Ⅱ」(1回目)、「情報技術論」(12・13回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「Society5.0と情報」(7回目)、「情報技術論」(12・13回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「情報技術論」(12・13回目) ・AIサービスの責任論「情報技術演習Ⅱ」(1回目)、「情報技術論」(12・13回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「情報技術論」(12・13回目)
	3-2	・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「情報技術演習」(1・15回目)、「Society5.0と情報」(6回目)、「情報技術演習Ⅱ」(1回目)、「情報技術論」(12・13回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「情報技術演習」(4回目)、「Society5.0と情報」(6回目)、「情報技術演習Ⅱ」(1回目)、「情報技術論」(12・13回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報技術演習」(15回目)、「Society5.0と情報」(6回目)、「情報技術演習Ⅱ」(1回目)、「情報技術論」(12・13回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での事例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「情報技術演習」(11・12回目)、「確率と統計の基礎」(2回目)、「情報技術演習Ⅱ」(5～8回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「情報技術演習」(11・12回目)、「確率と統計の基礎」(3・4回目)、「情報技術演習Ⅱ」(5～8回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「情報技術演習」(11・12回目)、「確率と統計の基礎」(3・4回目)、「情報技術演習Ⅱ」(5～8回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「情報技術演習」(11・12回目)、「確率と統計の基礎」(3・4回目)、「情報技術演習Ⅱ」(5～8回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い「確率と統計の基礎」(3・4回目) ・打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ「確率と統計の基礎」(3・4回目) ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「確率と統計の基礎」(5回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「確率と統計の基礎」(12回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「情報技術演習」(11・12回目)、「情報技術演習Ⅱ」(5～8回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「情報技術演習」(11・12回目)、「確率と統計の基礎」(1・2回目)、「情報技術演習Ⅱ」(5～8回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「情報技術演習」(11・12回目)、「確率と統計の基礎」(7～14回目)、「情報技術演習Ⅱ」(5・6回目) ・データの図表表現(チャート化)「情報技術演習」(11・12回目)、「確率と統計の基礎」(7～14回目)、「情報技術演習Ⅱ」(5・6回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「確率と統計の基礎」(7～14回目)、「情報技術演習Ⅱ」(5・6回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「情報技術演習」(11・12回目)、「確率と統計の基礎」(7～14回目)、「情報技術演習Ⅱ」(7・8回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「情報技術演習」(11・12回目)、「確率と統計の基礎」(7～14回目)、「情報技術演習Ⅱ」(7・8回目)
	2-3	・データの集計(和、平均)「情報技術演習」(11・12回目)、「情報技術演習Ⅱ」(5～8回目)、「確率と統計の基礎」(7～14回目) ・データの並び替え、ランキング「情報技術演習」(11・12回目)、「情報技術演習Ⅱ」(5～8回目)、「確率と統計の基礎」(7～14回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「情報技術演習」(11・12回目)、「情報技術演習Ⅱ」(5～8回目)、「確率と統計の基礎」(7～14回目) ・表形式のデータ(csv)「情報技術演習」(11・12回目)、「情報技術演習Ⅱ」(5～8回目)、「確率と統計の基礎」(7～14回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・情報・データに関するリテラシーを理解する。
- ・第4次産業革命と言われるAI、ビッグデータ、IoT等の先端技術がどのように産業や社会生活に取り入れられているかを理解する。
- ・データの数理的な扱いを理解する。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和5 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 764 人 女性 671 人 (合計 1435 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学 定員	収容 定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数 合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
人間関係学部	843	200	810	184	0											184	23%
法学部	592	145	590	120	0											120	20%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合 計	1,435	345	1,400	304	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	304	22%

大学等名 志學館大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 60 人 (非常勤) 82 人

② プログラムの授業を教えている教員数 4 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 近藤 諭

(役職名) 法学部長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

教育課程編成会議

(責任者名) 飯干 紀代子

(役職名) 学長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

志學館大学教育課程編成会議規程

⑥ 体制の目的

教育課程編成会議は、志學館大学の教育課程の体系的かつ組織的な編成を図ることを目的に、教育目的並びに卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針の見直し、教育課程の見直し、改訂及び編成、その他教育課程の体系的かつ組織的な編成に関し必要な事項を業務所掌とする組織である。全学で開設している教育プログラムの編成についても本組織で審議・検討を行う。

⑦ 具体的な構成員

飯干紀代子 学長
入佐信宏 人間関係学部長 教授
近藤 諭 法学部長 教授
志賀玲子 学務担当学長補佐 教授
神蘭紀幸 点検評価担当学長補佐 教授
三浦 卓 人間関係学部教務委員長 准教授
井上 隆 法学部教務委員長 教授
與崎泰久 高大接続教育センター長 特任教授
新納雅樹 教職センター長 特任教授
上野浩一 事務局長
浮邊博和 学務課長

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	22%	令和6年度予定	33%	令和7年度予定	45%
令和8年度予定	56%	令和9年度予定	65%	収容定員(名)	1,400

具体的な計画

本プログラムは、令和5年度より全学学生を対象に「Society5.0基礎プログラム」として開設した。平成11年度より共通教育の情報系科目として必修科目であった「インターネット演習」を本プログラムの開設にあわせて「情報技術演習」へと名称・内容共に社会の要請を取り込む方向で刷新して、履修については変わらず必修とした。また同年度に共通教育科目の「メディアと情報伝達」科目についても、Society5.0を見据えた数理・データサイエンス・AI活用の社会で活躍する人材育成に向けて名称・内容を改め「Society5.0と情報」という科目で開講する事とした。一方では文系大学であるゆえか、統計処理手法を学修する「確率と統計の基礎」の履修者数が伸びず、プログラムの修了に少しのハードルの高さが学生に感じられている現状もあり、今後は履修率の向上を図るためにプログラム内の各授業科目内で履修勧奨を行うとともに、履修に障壁を感じさせない科目内容や構成について検討していく予定である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

必修科目は共通教育科目区分に属しており、学部の制約を問わず科目履修が可能である。本プログラム構成科目が属する共通科目区分からは2単位以上の履修を求めていること、令和5年度教育課程より所属学部学科での単位の履修に加え全学開設科目からの一定数の単位の科目履修を定めたことから、本プログラムの履修に際して教育課程上の必要な取組を行った。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

学生に配布される「学生便覧」に本プログラムを構成する科目一覧を掲載するとともに、本学ホームページ上に「教育プログラム」項目を設けて、他のプログラムとあわせて冊子と同一の内容を掲示している。毎年度初めのオリエンテーション上でも本プログラムの告知を行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本プログラムは、要件となる単位修得を完了した学生に対して、就職活動等での学修成果の利用を考慮して、プログラム修了証を発行しており、進路に活かせる体制を整えている。プログラム構成科目においてもプログラムの必要性や活用範囲について周知していく。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本教育プログラムについての授業時間外での学習指導、質問については、現在学内で利用されているLMS(Moodle)上でのディスカッションボード等を利用して、科目担当教員に対して発信できる設備を整えている。あわせて、教員のオフィスアワーを利用して質問指導等を受けることができる。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

点検・評価委員会	
(責任者名) 飯干紀代子	(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムの履修状況や単位修得の把握には、学生ポータルとして教学情報を一括参照可能なUniversal Passportシステムを通じて全学的に把握している。これと連動した教務データベースより、全学学生の本プログラムのみの履修状況の割合や単位修得結果について年度毎に分析して、実態把握をルーティン化していく。本プログラムが令和5年度開設のため、現在卒業必修となっている科目以外の科目についてはセメスター毎に履修状況を確認している途上である。
学修成果	本学のアセスメントポリシーに定められた、高い学修成果を得るための取組として、科目レベルの評価手段である授業評価アンケート、大学レベルでの学生生活アンケート(学修行動項目)、卒業時アンケート、卒業生アンケートを活用して、科目レベルでの成果達成状況や大学全体でのディプロマポリシー達成状況を把握することにより、成果の把握を可能としている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	全開講科目を対象に実施している「授業評価アンケート」により授業スキル、教育の質保証、学習行動等についての内容が把握され、IR室より科目担当教員に科目別結果をフィードバックしている。授業担当教員は、評価結果を踏まえての次年度の改善案を提出するというプロセスをセメスター毎に遂行することで、IR・FDの仕組みを構築している。 本プログラムの構成科目である情報技術演習の令和5年度の評価結果については、「授業の狙いの適切性(5段階)」でクラス平均4.3、「授業時間外での学習(5段階)」3.4、「受講者自身の取組姿勢(10段階)」7.6であり平均に達しているが、本プログラムのキーワードに沿った回答項目をプログラム内構成科目向けに別途設定して理解度の把握も必要であると考えられる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	全学的に毎学期実施される「授業評価アンケート」での本プログラム構成科目の満足度やコメント内容を踏まえて、授業改善に活用している。令和5年度の質問項目には推奨度についての回答項目を設けていないため、前項でも記載したように、本プログラム構成科目を対象とした固有の授業内の意見聴取フォーマットの検討および実施を検討する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムの構成科目「情報技術演習」については、共通教育基礎科目区分として2021年度まで「インターネット演習」の名称で全学必修科目として開設していたものを、2022年度より本プログラムの開設にあわせて内容をアップデートするとともに共通教育導入科目と区分名称を改めた。今後は、プログラムの他の構成科目の履修者数増に向けて、数理・データサイエンス・AI教育の重要性をアピールするなどの向上策を検討する。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは2023年度から開講して本申請時点では修了者が出ていないため、修了者の進路、活躍状況等についての評価を得るまでに至っていない。本学には卒業生対象のディプロマポリシー達成度の調査を実施しており、機会を活用して評価を得ることを予定している。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学では毎年度に鹿児島県立地の企業団体より各ポリシーや高等教育への要望を聴取しており、様々な意見を教育内容の検討やポリシーの見直しに活用している。本プログラムは開講より日が浅いが、この機会を利用して本プログラムの内容や手法についても意見聴取を行っていく。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	まず私たち自身がすでに「データ」を構成する要素として、広く社会やビジネスシーンにおいて扱われていることを初回の授業内容で認識させる。スマートフォンの利用機会が多い日常生活日常生活の活動のほとんどで、支払、ポイント利用、ヘルスケア、GPS情報などが利用者自身のみならずサービス提供者にも利用されていることを改めて認識することにより、私たちの社会活動そのものがデータ活用によって成り立っていることを強調する。あわせてそのようなデータがどのような領域で活用されているか、どのような職種でどのようなデータが重宝されているかを意識することで、将来就くであろう職業におけるデータ利用の可能性を理解する。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	授業内で課題を提示して、遂行状況を確認することで授業内容や水準のモニターに活用する。また、全学で実施している毎学期の授業評価アンケート結果を元に、本プログラム科目についての学修の理解度、教育方法、アクティブラーニングへの参加態度などを参考に授業改善を継続的にやっていく。

科目名	情報技術演習（人関A）				
担当者	大野 隆士（OHNO, Takashi）				
授業形態	演習	単位数	2単位	開講期	前期
科目コード	CM003in1TU2	CM003ba1TU2			
科目群	共通__導入科目				
必修・選択	必修				
配当年次	1				
教育プログラム	Society5.0基礎プログラム必修科目				
授業内容	大学4年間、卒業後に必要とされるコンピュータの基本操作と、インターネットの利活用について説明する。学内の情報基盤、ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションのためのソフトウェアに関する基礎的事項を扱う。これらICT機器の操作やソフトウェアの利用、Webなどの利用を通じて、情報の収集整理法や、今後の社会に必要とされるデータ分析・活用能力を育成する。情報の取り扱いにおいては、著作権や情報セキュリティ、情報モラルに沿って活用できるような技能を身につける。				
授業の到達目標	・コンピュータの概念と基本的な操作ができるようになる。 ・電子メールのしくみと基本的な操作ができるようになる。 ・Webブラウザを使った情報検索、収集ができるようになる。 ・ICT機器を用いて、取得した情報の基本的な分析ができるようになる。 ・著作権や情報セキュリティについて理解し、情報モラルに沿ってデータを活用できるようになる。 ・ネット上のその他のサービスを利活用できるようになる。				
授業計画					担当者
第1回	講義についての紹介、基本の用語と操作、Moodleログイン				大野
第2回	かな漢字変換と文字入力 ワードプロセッサの基本の操作				大野
第3回	書類の保存と読み込み、ファイル管理				大野
第4回	WWWとインターネット				大野
第5回	情報の検索1				大野
第6回	情報の検索2、検索結果の管理(整理保存)				大野
第7回	Moodle、ePortfolioシステム等の紹介と操作				大野
第8回	ワードプロセッサの基本操作、情報の加工				大野
第9回	電子メールの基本操作				大野
第10回	電子メールの応用操作				大野
第11回	表計算ソフトの基本操作1、情報の蓄積				大野
第12回	表計算ソフトの基本操作2、情報の加工／分析				大野
第13回	プレゼンテーションソフトの基本操作1、情報の発信				大野
第14回	プレゼンテーションソフトの基本操作2、情報の発信				大野
第15回	情報セキュリティと情報倫理(情報モラル)、講義の総まとめ				大野
授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	（その他の活動）
					コンピュータ機器の操作
事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。			事前学習合計時間(h)	30時間
事後学習	・講義中に分からなかった用語は調べておくこと。 ・毎回の課題を必ずやること。			事後学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	主として、Moodle等のCMSを用いる。				
質問・相談方法	講義内、講義後に質問を受け付ける。 時間を要する場合は、オフィスアワー時に対応する。				

使用教材	適宜ハンドアウトを利用すると共に、年度に応じた教科書を提示する。
参考文献	参考文献は適宜紹介する。
成績評価基準	レポートの作成等に必要な各種ソフトウェアの基本操作が理解できているかどうかを合否判断の基準とする。
成績評価の方法	受講態度(30%)、課題(30%)、試験・レポート(40%)による。
GPA基準	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、授業の中で説明する。
＜担当教員の実務経験と授業との関連＞	
＜読書課題の成績評価方法＞	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。
資格情報	
授業の実施方法	対面授業を実施します。対面授業が実施困難な場合は原則休講とし、後日補講等を行います。

科目名	Society5.0と情報				
担当者	大野 隆士 (OHNO, Takashi) 、近藤 諭 (KONDO, Satoru)				
授業形態	講義	単位数	2単位	開講期	後期
科目コード	CM058ba1Lc3	CM058g41Lc3			
科目群	共通__教養基礎	共通4群			
必修・選択	選択				
配当年次	1				
教育プログラム	Society5.0基礎プログラム必修科目				
授業内容	メディアの発展とそれに伴うコミュニケーションへの影響についての理解を通して、コミュニケーションや情報伝達がどのように変化してきたのかを学ぶ。人工知能(AI)、IoT、ビッグデータなど、Society 5.0 を構成するための新しい技術により、これからの社会がどのように変化していくのかを考える。方法として、受講メンバーでグループを組み、アクティブ・ラーニングを実施する。それぞれのグループで、これらについてディスカッションし、問題を発見し、解決法について考え、それを提示・発表することを通して理解を深める。				
授業の到達目標	・音、声、ことば、文字・記号、印刷技術、写真技術、通信技術などが、コミュニケーションを円滑にするために発展し、結果として社会制度の変革につながってきたことが理解できる。 ・更に、SNSなどの新しいコミュニケーション・メディアが、これまで以上に社会制度や人間関係を変革させ、私たちの生活や思考を変えていくことについて、事例を通して考えることが出来る。 ・ネットワークとコンピュータの発達により、データの取得が簡単になり、AIの登場によって社会が変化しつつあることを理解する。 ・データ・AIを活用するために使われている技術の概要を理解し、それらによって取り扱われるデータやAIを使う上で留意すべきことを理解する。 ・個人や企業、国家が持つデータを守る上で必要な情報セキュリティ、取り扱い方法について理解する。				
授業計画					担当者
第1回	オリエンテーション メディアとは何か：音、声、ことば、文字、印刷技術(本／雑誌／新聞) 有線通信技術と文字・音声メディア(電信／電話)				近藤・大野
第2回	無線通信技術と音声・映像メディア(ラジオ／テレビ／映画) 無線通信技術と遠隔コミュニケーション(無線機／携帯電話)				大野
第3回	インターネット関連技術とデータベース・情報検索 インターネット関連技術と双方向メディア				大野
第4回	未来のメディア 人工知能(AI)、モノのインターネット(IoT)、ビッグデータ、Society 5.0				大野
第5回	データ、AIの利活用による社会の変化（ビジネス／サービス編）				近藤
第6回	データ、AIの利活用による社会の変化（個人／コミュニケーション編）				近藤
第7回	メディアの変化、データ、AIの活用がもたらす影響（まとめ）				近藤
第8回	グループワーク(0) (グループ分け、グループワークの注意点など)				近藤・大野
第9回	個人ワーク(1) (グループワーク前の準備)				近藤・大野
第10回	個人ワーク(2) (グループワーク前の準備)				近藤・大野
第11回	グループワーク（1）(グループ内・外の学生同士でディスカッションし、意見をまとめる)				近藤・大野
第12回	グループワーク（2）(グループ内・外の学生同士でディスカッションし、意見をまとめる)				近藤・大野
第13回	グループワーク（3）(グループ内・外の学生同士でディスカッションし、意見をまとめる)				近藤・大野
第14回	グループワーク（4）(グループ内・外の学生同士でディスカッションし、意見をまとめる)				近藤・大野
第15回	総まとめ(各グループごとにプレゼンテーションを行なう)				近藤・大野
授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	（その他の活動）

	○	○	○		コンピュータ機器の操作
事前学習	・グループで課題が出された時は、授業時間以外でも打ち合わせして、グループでの課題学習に取り組むこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。			事前学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業で出てきた用語や、他グループの報告内容の分からないところを、各自で復習して理解を完全にするよう努めること。			事後学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	主として、Moodle等のCMSを用いる。				
質問・相談方法	講義内、講義後に質問を受け付ける。時間を要する場合は、オフィスアワー時に対応する。必要に応じて質問、相談に対する回答をMoodleに掲載する。				
使用教材	教科書は特に指定しない。適宜ハンドアウトを用いる。				
参考文献	必要なときに指示する。				
成績評価基準	「種々のメディアの特性や、その役割の理解、新しいメディアを利用する上で注意を払う点やコミュニケーションに対する変化についての理解度」を合否判断の基準とする。				
成績評価の方法	受講態度20%、グループ学習成果40%、個人別課題の提出20%、レポート20%				
GPA基準					
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。				
＜担当教員の実務経験と授業との関連＞					
＜読書課題の成績評価方法＞	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。				
資格情報					
授業の実施方法	対面授業を実施します。対面授業が実施困難な場合は原則休講とし、後日補講等を行います。				

科目名	確率と統計の基礎				
担当者	内田 豊海				
授業形態	講義	単位数	2単位	開講期	後期
科目コード	CM044g31LE2				
科目群	共通__4群	共通__3群			
必修・選択	選択	選択			
配当年次	1	2年生以上			
教育プログラム	Society5.0基礎プログラム必修科目				

授業内容	自然現象や社会現象の実態を解明するために、観察・実験・調査が行われる。その結果得られる資料を統計的に処理する必要に迫られる場合が少なくない。また、社会が複雑さの度を増し、人間の自然認識が深まるにつれて、自分達をとりまく膨大な情報・資料を分析し、合理的な判断をするためにも事物を統計的に観る目が要求されるであろう。統計学はそのための理論と応用を研究する学問である。本講はその初歩的解説を行うものである。
授業の到達目標	基本的なデータ処理ができるようになる。 分布の基本的な特性値の意味を理解する。 確率に関する基本的な概念や法則を理解する。 確率変数と基本的な確率分布を理解する。 統計モデルと統計的推定・検定の概念を理解する。

授業計画	担当者
第1回	確率と統計の社会的有用性
第2回	データサイエンスにおける統計の役割
第3回	データの収集と整理
第4回	分布の種類と標準化
第5回	相関について
第6回	確率の使い方
第7回	確率（確率の定義、基本的生出）
第8回	確率（条件付確率、ベイズの定理）
第9回	確率変数と確率分布（確率変数、確率分布）
第10回	確率変数と確率分布（離散型確率変数の分布）
第11回	確率変数と確率分布（連続型確率変数の分布）
第12回	統計的推定・検定（無作為標本、標本分布）
第13回	統計的推定・検定（推定、母比率の推定）
第14回	統計的推定・検定（検定、母比率の検定）
第15回	まとめ（様々な場面への適用）
	内田

授業に含まれる活動	ディスカッション・ 討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	（その他の活動）

事前学習	「教科書」を前もって読んでおくこと。	事前学習合計時間(h)	30時間
事後学習	適宜課題を出題する。	事後学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合のフィードバックは、受講者の求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	質問・相談には授業の前後で対応する。		
使用教材	高橋信「マンガでわかる統計学」 オーム社 ISBN-10: 4274065705		
参考文献	なし		
成績評価基準	到達目標が達成されたものは合格とします。		
成績評価の方法	小テスト・レポート（20%）期末試験（80%）		
GPA基準			
備考	2020年度入学生・・・教養__4群科目 2019年度以前入学生・・・教養__3群科目		

＜担当教員の実務経験 と授業との関連＞	
＜読書課題の成績評価 方法＞	(手引きの①～⑤の中から選択して入力してください)
資格情報	
授業の実施方法	対面授業を実施します。対面授業が実施困難な場合は原則休講とし、後日補講等を行います。

科目名	情報技術演習Ⅱ				
担当者	大野 隆士 (OHNO, Takashi)				
授業形態	演習	単位数	2単位	開講期	後期
科目コード	CM060g41TU2				
科目群	共通__4群				
必修・選択	選択				
配当年次	1				
教育プログラム	Society5.0基礎プログラム必修科目				
授業内容	ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーション、データベースの各分野のソフトウェアの利用方法を中心に講義を行う。情報技術演習で学んだ基礎をもとに、より高度な活用のために“情報を上手に表現する技術”について演習を重ね、今後の社会に必要とされるデータ分析・活用能力を育成する。演習用の単純なデータだけでなく、統計局や企業提供のデータなど、より現実に近いデータを使った分析も行なう。データ例のひとつとして、本学が協定を結んでいる中小企業家同友会の提供したものを用い、企業の問題解決に資するようなデータ分析演習となるようにしたい。データ処理の場面では、著作権や情報セキュリティなど、情報の取り扱いにも注意を払い、情報モラルに沿った活用となるよう指導する。				
授業の到達目標	・ワープロを使った文書作成ができるようになる。 ・表計算ソフトを使った情報の蓄積、加工、分析ができるようになる。 ・プレゼンソフトを利用して発表ができるようになる。 ・データベースの仕組みを理解し、簡単なリレーショナルデータベースが作成できるようになる。 ・複数のソフトを組み合わせた情報処理ができるようになる。 ・情報モラルに沿ったデータ活用ができるようになる。				
授業計画					担当者
第1回	講義についての紹介、コンピュータの基本操作のおさらい データの活用における、著作権や情報セキュリティ、情報倫理(情報モラル)について				大野
第2回	ワープロ1(基本操作)				大野
第3回	ワープロ2(応用操作)				大野
第4回	ワープロ3(応用操作) 大部の書類(長文ドキュメント)を作成するときの機能について				大野
第5回	表計算ソフト1(基本操作)				大野
第6回	表計算ソフト2(基本操作)				大野
第7回	表計算ソフト3(応用操作) 外部データの取り込みやデータの書き出し、共有				大野
第8回	表計算ソフト4(応用操作) 実際の企業データを用いた表計算ソフトの活用				大野
第9回	プレゼンテーション・ソフト1(基本操作)				大野
第10回	プレゼンテーション・ソフト2(応用操作) 分析したデータ等をわかりやすく提示できるような資料の作成				大野
第11回	データベース1(基本操作)				大野
第12回	データベース2(応用操作)				大野
第13回	データベース3(応用操作) DBのリレーショナル機能を使って、売り上げ管理のDBを作成				大野
第14回	各種ソフトを組み合わせた情報処理1				大野
第15回	各種ソフトを組み合わせた情報処理2、総まとめ				大野
授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	(その他の活動)
			。		コンピュータ機器の操作
事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと			事前学習合計時間(h)	30時間

	と。		
事後学習	・ わからない用語等はそのままにせず、調べておくこと。 ・ 課題は、次の回までに完了させておくこと。	事後学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	主として、Moodle等のCMSを用いる。		
質問・相談方法	講義内、講義後に質問を受け付ける。 時間を要する場合は、オフィスアワー時に対応する。		
使用教材	講義時に提示する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
成績評価基準	「手順だけを覚えるのではなく、なぜその処理を用いるのかといったことを理解した上でソフトウェアを操作し、活用できているか」を合否判断の基準とする。		
成績評価の方法	受講態度(30%)、課題(30%)、試験・レポート(40%)による。		
GPA基準			
備考	情報技術演習(旧：インターネット演習)の単位を修得済みであることが履修登録の条件である(前期クラスは、1年生は受講できない)。企業提供の実データをもとに、より実践的なデータ分析を体験してもらう予定である。『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味する。		
<担当教員の実務経験と授業との関連>			
<読書課題の成績評価方法>	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。		
資格情報			
授業の実施方法	対面授業を実施します。対面授業が実施困難な場合は原則休講とし、後日補講等を行います。		

科目名	情報技術論（Aクラス）				
担当者	大野 隆士（OHNO, Takashi）				
授業形態	講義	単位数	2単位	開講期	前期
科目コード	CM059g41LE2				
科目群	共通__4群				
必修・選択	選択				
配当年次	1				
教育プログラム	Society5.0基礎プログラム必修科目				
授業内容	ここ数年で急速に身近な生活の中に浸透してきた情報通信技術（ICT）の基礎知識や概念を学ぶことにより、現代の社会基盤であるインターネットやコンピュータ・システムの利点、欠点、それらをふまえた活用方法について考える。ICTを使ったサービス例として、図書館での情報技術の活用を取り上げ、より具体的に学ぶ。				
授業の到達目標	・ICTの基礎となる情報技術や通信技術の特徴を理解できるようになる。 ・情報技術や通信の統合例（図書館システム等）を具体的に説明できるようになる。 ・情報セキュリティについての基本的な考え方とその運用ができるようになる。				
授業計画					担当者
第1回	オリエンテーション、コンピュータとは				大野隆士
第2回	2進法と数値表現				大野隆士
第3回	論理回路とコンピュータ				大野隆士
第4回	アナログとデジタル（コード化とその実例）				大野隆士
第5回	コンピュータとネットワーク				大野隆士
第6回	インターネット（歴史）				大野隆士
第7回	インターネット（通信のしくみ）				大野隆士
第8回	インターネット（サービス、ホームページ）				大野隆士
第9回	データベース（基本）				大野隆士
第10回	データベース（図書館DB等の実例をふまえて）				大野隆士
第11回	コンピュータ・システムと運用				大野隆士
第12回	情報セキュリティの基礎				大野隆士
第13回	情報セキュリティと個人情報				大野隆士
第14回	未来のメディア（ロボットや人工知能[AI]など）				大野隆士
第15回	未来のメディア、講義まとめ				大野隆士
授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	（その他の活動）
					Moodleを使った理解度チェック
事前学習	講義は段階的に進めるので、前回講義等の振り返り(まとめ)をしながら、次の講義に臨むこと。			事前学習合計時間(h)	30時間
事後学習	・講義中に分からなかった用語は調べておくこと。 ・与えられた課題を確実にやること。			事後学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	主として、Moodle等のCMSを用いる。				
質問・相談方法	講義内、講義後に質問を受け付ける。時間を要する場合は、オフィスアワー時に対応する。必要に応じて質問、相談に対する回答をMoodleに掲載する。				
使用教材	・「ITパスポート＜令和04年＞キタミ式イラストIT塾」（技術評論社）				
参考文献	適宜紹介する。				
成績評価基準	各種ICT技術の基本的な特徴の理解、それらの技術の適用場面、データベースシステムや情報セキュリティ等についての基本的な理解ができていないかを合格の基準とします。				
成績評価の方法	講義中の小レポート等40%、最終レポート50%、受講態度等10%。				
GPA基準					

備考	講義ではコンピュータを使う課題もあるので、各人の電子メール、M o o d l e、図書館利用者 I D等の学内システムの I D/P W、その使い方を確認しておくこと。
<担当教員の実務経験と授業との関連>	
<読書課題の成績評価方法>	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、授業の中で説明する。
資格情報	
授業の実施方法	対面授業を実施します。対面授業が実施困難な場合は原則休講とし、後日補講等を行います。

(別表) 志學館大学教育課程表

卒業に必要な共通教育科目の単位数

1 人間関係学部の学生は、別表 1－1 に掲げる共通教育科目から 46 単位以上を、次の区分に従い修得しなければならない。

(1) 必修科目 6 単位

導入科目 6 単位を修得すること

(2) 選択科目 40 単位以上

ア 教養科目から 20 単位

第 1 群から 6 単位、第 2 群から 6 単位、第 3 群から 6 単位、第 4 群から 2 単位

イ キャリア形成科目から 2 単位

ウ 外国語科目から 8 単位。ただし、2 言語を履修する場合は、1 言語につき 4 単位を修得すること。

エ その他 10 単位以上は、共通教育科目のいずれの区分から修得してもよい

2 法学部の学生は、別表 1－1 に掲げる共通教育科目から 34 単位以上を、次の区分に従い修得しなければならない。

(1) 必修科目 6 単位

導入科目 6 単位を修得すること

(2) 選択科目 28 単位以上

ア 教養科目から 8 単位

第 1 群から 2 単位、第 2 群から 2 単位、第 3 群から 2 単位、第 4 群から 2 単位

イ キャリア形成科目から 2 単位

ウ 外国語科目から 8 単位。ただし、2 言語を履修する場合は、1 言語につき 4 単位を修得すること。

エ その他 10 単位以上は、共通教育科目のいずれの区分から修得してもよい

3 外国語科目は、第一言語（母語）以外の言語で修得すること。

卒業に必要な外国人留学生特別科目の単位数

1 外国人留学生は、別表 1－2 に掲げる 16 単位（8 科目）を、修得しなければならない。

2 外国人留学生は、別表 1－2 に掲げる日本事情Ⅰ～Ⅳの科目の修得単位で、教養科目の単位に代えることができる。

3 外国人留学生は、別表 1－2 に掲げる日本語Ⅰ～Ⅳの科目の修得単位で、外国語科目の単位に代えることができる。

4 日本語を第一言語（母語）とする学生は、別表 1－2 に掲げる科目を受講することはできない。

別表第1－1 共通教育科目表

区分	授 業 科 目	単位数	授業形態	必修	選択	配当年次	備考
導入科目	学問へのステップⅠ	2	演習	2		1	
	学問へのステップⅡ	2	演習	2		1	
	情報技術演習	2	演習	2		1	
	小計			6			

区分	群	授 業 科 目	単位数	授業形態	必修	選択	配当年次	備考
教養科目	教養基礎科目群	持続可能な開発（SDGs）	2	講義		2	1	
		Society5.0 と情報	2	講義		2	1	
		総合教養講座Ⅰ	2	講義		2	1	
		総合教養講座Ⅱ	2	講義		2	1	
		スポーツ&エクササイズA	1	実技		1	1	
		スポーツ&エクササイズB	1	実技		1	1	
	第1群（思想と歴史・文化の諸相）	哲学	2	講義		2	1	
		現代の倫理	2	講義		2	1	
		宗教文化論	2	講義		2	1	
		人間らしさを考える	2	講義		2	1	
		東洋思想	2	講義		2	1	
		日本の歴史	2	講義		2	1	
		アジアの歴史	2	講義		2	1	
		中国の文化	2	講義		2	1	
		ヨーロッパの歴史	2	講義		2	1	
		ことばの科学	2	講義		2	1	
		日本の文学	2	講義		2	1	
		世界文学への招待	2	講義		2	1	
		異文化コミュニケーション	2	講義		2	1	
		隼人学	2	講義		2	1	
		恋愛論	2	講義		2	1	
		韓国の言語と文化	2	演習		2	1	
		読書と豊かな人間性	2	講義		2	1	
	第2群（社会と人間の諸相）	現代社会の病理	2	講義		2	1	
		日本国憲法	2	講義		2	1	
		現代社会と法	2	講義		2	1	
		現代社会と政治	2	講義		2	1	
		現代社会と経済	2	講義		2	1	
		現代の世界と歴史	2	講義		2	1	
		犯罪学入門	2	講義		2	1	
		生涯教育	2	講義		2	1	
		高齢者と社会	2	講義		2	1	
		障害者と福祉	2	講義		2	1	
		市民自治の知識と実践	2	講義		2	1	
		現代社会とジェンダー	2	講義		2	1	
		生と死	2	講義		2	1	
		税のしくみ	2	講義		2	1	
		新聞で読み解く現代	2	講義		2	1	
		地域づくり論	2	講義		2	1	
		現代社会とレクリエーション	2	講義		2	1	
		ボランティア企画実習	2	実習		2	2	
		まちづくり企画実習	2	実習・演習		2	2	

区分	群	授 業 科 目	単 位 数	授業 形態	必 修	選 択	配当 年次	備考
教養科目	第3群 (生命と環境・資源利用の諸相)	科学史	2	講義		2	1	
		人間と進化	2	講義		2	1	
		脳の科学	2	講義		2	1	
		こころの世界	2	講義		2	1	
		こころの健康	2	講義		2	1	
		動物と法	2	講義		2	1	
		生物の多様性	2	講義		2	1	
		自然環境のしくみ	2	講義		2	1	
		フィールドで学ぶ環境科学	2	講義・実習		2	1	
		食料問題と持続的開発	2	講義		2	1	
		エネルギー資源利用の未来	2	講義		2	1	
		産業・技術と倫理	2	講義		2	1	
		スポーツと現代社会	2	講義・演習		2	1	
	第4群 (数理・情報環境の諸相)	文系学生のための数学の世界	2	講義		2	1	
		確率と統計の基礎	2	講義		2	1	
		情報技術演習Ⅱ	2	演習		2	1	
		情報技術応用演習	2	演習		2	1	
		情報技術論	2	講義		2	1	
		映像音声編集入門	2	演習		2	2	
		プログラミングⅠ	2	演習		2	2	
		プログラミングⅡ	2	演習		2	2	
	小計					124		

区分	授 業 科 目	単 位 数	授業 形態	必 修	選 択	配当 年次	備考
キャリア形成科目	キャリア開発入門	2	講義		2	1	
	キャリア概論（かごしま学）	2	講義		2	2	
	キャリアデザイン	2	講義		2	2	
	キャリア開発演習	2	講義・演習		2	2	
	インターンシップ	2	実習・演習		2	2	
	インターンシップ（長期）	2	実習・演習		2	2	
	小計				12		

区分	授 業 科 目	単 位 数	授業 形態	必 修	選 択	配当 年次	備考
かごしま教養科目	かごしま教養プログラム	2	演習		2	1	
	かごしまフィールドスクール	2	実習		2	1	
	小計				4		

区分	授 業 科 目	単 位 数	授業 形態	必 修	選 択	配当 年次	備考
外国語科目	英語Ⅰ	2	演習		2	1	
	英語Ⅱ	2	演習		2	1	
	英語A (TOEICⅠ)	2	演習		2	2	
	英語B (TOEICⅡ)	2	演習		2	2	
	英語C (ビジネス英語Ⅰ)	2	演習		2	2	
	英語D (ビジネス英語Ⅱ)	2	演習		2	2	
	外国語入門Ⅰ (英語)	2	演習		2	2	
	外国語入門Ⅱ (英語)	2	演習		2	2	
	ドイツ語Ⅰ	2	演習		2	1	
	ドイツ語Ⅱ	2	演習		2	1	
	ドイツ語Ⅲ	2	演習		2	2	
	ドイツ語Ⅳ	2	演習		2	2	
	フランス語Ⅰ	2	演習		2	1	
	フランス語Ⅱ	2	演習		2	1	
	フランス語Ⅲ	2	演習		2	2	
	フランス語Ⅳ	2	演習		2	2	
	中国語Ⅰ	2	演習		2	1	
	中国語Ⅱ	2	演習		2	1	
	中国語Ⅲ	2	演習		2	2	
	中国語Ⅳ	2	演習		2	2	
	韓国語Ⅰ	2	演習		2	1	
	韓国語Ⅱ	2	演習		2	1	
	韓国語Ⅲ	2	演習		2	2	
	韓国語Ⅳ	2	演習		2	2	
	小計				48		

別表第1－2 外国人留学生特別科目表

授 業 科 目	単 位 数	授業 形態	必 修	選 択	配当 年次	備考
日本事情Ⅰ	2	演習	2		1	
日本事情Ⅱ	2	演習	2		1	
日本事情Ⅲ	2	演習	2		2	
日本事情Ⅳ	2	演習	2		2	
日本語Ⅰ	2	演習	2		1	
日本語Ⅱ	2	演習	2		1	
日本語Ⅲ	2	演習	2		2	
日本語Ⅳ	2	演習	2		2	
小計			16			

志學館大学教育課程編成会議規程

(設 置)

第1条 志學館大学（以下「本学」という。）に、志學館大学教育課程編成会議（以下「会議」という。）を置く。

(業 務)

第2条 会議は、次に掲げる業務を実施し、本学の教育課程の体系的かつ組織的な編成を図る。

- (1) 本学の教育目的並びに卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針の見直し
- (2) 教育課程の見直し、改訂及び編成
- (3) その他教育課程の体系的かつ組織的な編成に関し必要な事項

(組 織)

第3条 会議は、次に掲げる者で組織する。

- (1) 学長
- (2) 学長補佐（学務担当）
- (3) 高大接続教育センター長
- (4) 教職センター長
- (5) 各学部教務委員会の委員長
- (6) 学長が指名した者 若干名
- (7) 事務局長
- (8) 学務課長

2 前項第6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 欠員が生じたときに補充する委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

第4条 学長は、会議を招集し、その議長となる。ただし、学長に事故あるときは、あらかじめ学長の指名した者がその職務を代理する。

2 議長は、会議を統括し、第2条各号に掲げる業務の遂行にあたる。

3 議長が必要と認めたときは、関係の職員を出席させ意見を聴くことができる。

(事 務)

第5条 会議の事務は、学務課で処理する。

(雑 則)

第6条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、大学運営会議において別に定める。

附 則

この規程は、平成29年8月23日から施行し、平成28年9月7日から適用する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行適用する。

志學館大学自己点検・自己評価要項

(趣 旨)

第1条 この要項は、志學館学園が定める志學館大学及び鹿児島女子短期大学に係る自己点検・自己評価に関する規程（以下「学園点検・評価規程」という。）、志學館大学学則第2条第3項及び志學館大学大学院学則第3条第3項の規定に基づき、志學館大学（以下「本学」といい、志學館大学大学院を含む。）における自己点検・自己評価（以下「点検・評価」という。）に関し必要な事項を定める。

(実施事項)

第2条 本学の行う点検・評価は、次の各号に掲げる事項について実施するものとする。

- (1) 学則第2条第2項及び大学院学則第3条第2項に定める認証評価に関する事項
- (2) 志學館学園が定める本学の中期・短期事業計画に係る点検・評価に関する事項
- (3) 本学の業務に係るその他の点検・評価に関する事項

(組 織)

第3条 本学に、学園点検・評価規程第3条第3項の規定に基づき、前条に定める事項を実施するために、点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次に掲げる者で組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部長
- (4) 研究科長
- (5) 図書館長
- (6) 各学長補佐
- (7) 事務局長
- (8) その他学長が必要と認めた者 若干名

(委員会)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した者がその職務を代理する。

4 委員会は、委員の3分の2以上の出席で成立する。

5 議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは議長が決する。

6 第5条第3項に定める部会の委員は、当該部会が関わる議事を審議する場合には、出席させ意見を聴くものとする。

7 委員長が必要と認めたときは、関係の職員を出席させ意見を聴くことができる。

(実施部会)

第5条 委員会に、別表に定める実施部会（以下「部会」という。）を置くことができる。

2 部会に部会長を置き、第3条第2項に定める委員の中から学長が指名する。

3 部会員は、前条第2項に定める委員以外の教職員の中から学長が指名する。

4 部会の運営には、第4条を準用する。その場合、委員会は部会と、委員長は部会長と読み替える。

(任 務)

第6条 点検・評価委員会は、当該年度に実施する点検・評価項目を選択し、決定するものとするとともに、各部会に、定められた点検・評価項目に従い、点検・評価の実施計画を策定させ、実施させるものとする。

2 各部会は、当該年度に実施した点検結果を分析・評価し、点検・評価委員会に報告するものとする。

3 点検・評価委員会及び各部会は、学内の他の委員会及び事務局等を実施業務の一部を付託することができる。

4 点検・評価委員会は、当該年度に実施した点検・評価結果をとりまとめるとともに、必要な場合、対策を策定し、合同教授会又は各学部教授会の意見を聴いて、学園総括委員会に報告するものとする。

5 点検・評価委員会は、前項の点検・評価結果について、必要に応じ、学則第2条第2項及び志學館大学大学院学則第3条第2項に規定する文部科学大臣の認証を受けた者による評価（以下「認証評価」という。）に関する実施計画を作成し、実施するものとする。

(結果の活用)

第7条 点検・評価委員会は、実施した結果を学内に周知するとともに、第6条第4項に定める対策及び理事会の指示に従い改善に努めるものとする。

(事 務)

第8条 点検・評価委員会の事務は、総務課が処理する。ただし、必要な場合、点検・評価事項を所掌する課に処理業務の一部を付託することができる。

附 則

この規程は、平成4年12月2日から施行する。

附 則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年6月30日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年1月29日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成30年1月31日から施行する。

別表（第5条関係）

実施部会名	任務	備考
第一部会	認証評価に関する事項	部会長、部会員若干名
第二部会	志學館大学短期事業計画に係る点検・評価に関する事項	部会長、部会員若干名
臨時部会	その他の点検・評価に関する事項	部会長、部会員若干名

大学等名	志學館大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	Society5.0基礎プログラム（MDASHリテラシー）	申請年度	令和6年度



Society5.0基礎プログラム（MDASHリテラシー）

プログラムの目的

本学及び各学部、学科のディプロマポリシーに加えて、Society5.0の基礎である数理・データサイエンス・AIリテラシーを体系的に学ぶ。

プログラム構成科目及び修了要件

共通教育科目の中から、プログラム構成科目5科目10単位を必ず修了すること。

プログラムを改善・進化させるための体制

教育課程編成会議

プログラムの自己点検・評価を行う体制

点検・評価委員会

Society5.0基礎プログラム

MDASHリテラシー プログラム構成科目

情報技術演習（2単位）
Society5.0と情報（2単位）
確率と統計の基礎（2単位）
情報技術演習Ⅱ（2単位）
情報技術論（2単位）

**5科目
10単位
必修**

<関連科目>

文系学生のための数学の世界 情報技術応用演習
映像音声編集入門 プログラミングⅠ プログラミングⅡ
心理学統計法 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ
心理学研究法 社会調査法 社会福祉調査の基礎
社会調査統計 地誌学Ⅰ 地誌学Ⅱ 財政学 経済政策
ビジネスデータ分析Ⅰ ビジネスデータ分析Ⅱ

身につけられる能力

- 情報・データに関するリテラシーを理解する
- 第4次産業革命と言われるAI・ビッグデータ・IoT等の先端技術がどのように産業や社会生活に取り入れられているかを理解する。
- データの数理的な扱いを理解する。